

# ORCID 学会はどう対応するのか

公益社団法人 日本動物学会

事務局長

特定非営利活動法人 UniBio Press

代表

永井 裕子

# 目次

1. Open Science 時代のPID
2. ORCIDの現状－学協会の対応
3. 今後の展望



# 1. Open Science 時代の PID (Persistent ID)

# 研究者は研究成果をOpenにするため 「疲れ果てている」

- \* 研究者の世界ではIDが溢れている
  - \* システムは、使いにくい !!
  - \* ORCIDをそれらと混同している研究者も多い
- ◎ DOIとは違い、ORCIDは新しいものとして認知されていない

# Persistent ID

今後、学術情報流通にとって、必要な研究者IDは、Persistent IDである。  
ORCIDはその先頭を行く、PIDのひとつ。

Archival Resource Keys (ARKs)

Electronic Identifier Serial Publications (EISPs)

International eBook Identifier Numbers (IEINs)

Persistent Uniform Resource Locators (PURLs)

Uniform Resource Names (URNs)

Extensible Resource Identifiers (XRIs)

Magnet link (decentralized, with BitTorrent)

# \* PIDとは何か

- \* be based on a transparent and sustainable business model and underpinned by a nonprofit organization
- \* be subject to regular external quality assessment
- \* be governed by international boards
- \* have open standards
- \* have a secure architecture and be able to support a huge database
- \* support an openly documented API

<https://www.rd-alliance.org/sites/default/files/recommendation-jan-2017-v8.pdf> page 13, Section "PID8. RDA"

# 参考までに

- \* Research Data Alliance (RDA; 研究データ同盟)とは何か  
村山 泰啓

[https://japanlinkcenter.org/top/doc/160317\\_03murayama.pdf](https://japanlinkcenter.org/top/doc/160317_03murayama.pdf)

- \* What are persistent identifiers(PIDs) and why are they important?  
May 2017 Jonathan Clark

[https://figshare.com/articles/Overview\\_of\\_PID\\_Systems\\_for\\_THOR\\_Webinar/5016803](https://figshare.com/articles/Overview_of_PID_Systems_for_THOR_Webinar/5016803).

## 2. ORCIDの現状

### —学協会への対応



# Editorial Manager 利用学会

- \* 投稿時にORCID入力を必須としている学会 0
- \* 投稿時にORCIDを任意項目としている学会 21
- \* 利用学会数は150、個別利用は把握していない
- \* Editorial Managerを利用するジャーナル7000誌の89%は義務化か任意入力としている。

# ScholarOne Manuscripts

- \* 投稿時にORCID入力を必須としている学会 1
- \* 投稿時にORCIDを任意項目としている学会 19

分野	ORCID	総数
(1) Physical Sciences	3	16
(2) Biological Sciences	2	28
(3) Technology & Engineering	3	30
(4) Medical Sciences	10	90
(5) Arts, Humanities & Social Sciences	1	8

# Zoological Science

## 投稿時のORCID登録(任意)

- \* 57人の登録(1年間 約200論文の投稿者)
- \* 35人がOpen、22人は No public information available
- \* 35人 所属記載あり 18人(sourceは自分)  
所属記載なし 17人
- \* 記載事項が少ない。ORCIDがなにかわかっていない??
- \* ORCID登録者は増加しているが、学会が期待するデータは入っていないのか?

# ORCID義務化

- \*できるだけたくさん「投稿者もしくは査読者ORCID」を集めることが必要

# 3. 今後の展望

# API

- \* 日本の学会では、APIに精通した人材雇用は困難

# ORCID会費

- \* ORCIDメンバー会費は、ORCIDのシステムサポート費用

# 研究者の所属

- \* ORCIDの特性として、データ記載を行った者、団体名がSourceとして出る。
- \* 研究者の所属は投稿者を知る上で、重要である。ORCIDに記載された所属データにSourceとして所属機関からのデータを入れることが一般的となるだろう。



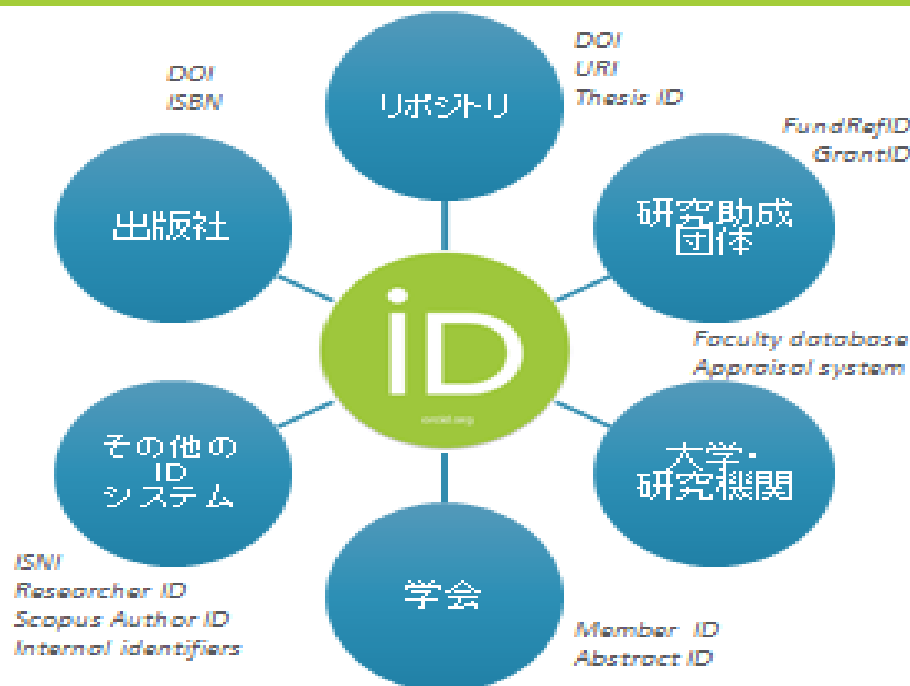
# ORCID 最も卓越している点

ORCID

ORCID IS A HUB

他の様々な識別子とリンクすることにより、ORCIDは研究者と、様々な業績やアウトプットを**正しく結びつけ**ます。

- 機械可読性 (machine-readable)
- 相互運用性 (interoperability)



宮入暢子 ORCID 学会コンソーシアム検討会資料 2017. 5. 26  
12頁一部改変

# ORCID

- \* ORCIDへの理解がまだ追いついていない。
- \* ORCIDは、出来上がったサービスを受けるものではなく、自らがその活動を支え、開発、展開を行うものとしてある。
- \* 投稿時に要求されてORCIDを取得したが、何もはじまっていないORCIDデータも多いのでは??
- \* 近い将来、DOIと同様の扱いになるであろうが、時間が必要

# コンソーシアム

- \* 大学研究機関、助成機関、学会を会員とするコンソーシアム設立を切望
- \* 特にAPIに関する技術的サポートを可能にするリード機関が必要
- \* 情報共有を行うことで、日本の学術情報全体を俯瞰できる可能性

# 学術情報は(昔から)すべての人のため にある

- \* Open Accessの推進
- \* PID 研究者にとってより優れたシステムとはなにかの追及
- \* **研究者をとりまく「所属機関」「出版社」「学会」「研究費支援機関、支援団体」による研究者支援**

\* お問い合わせ、ご質問は下記アドレスへ  
お願いします。

\* 永井 裕子 [zsj-society@zoology.or.jp](mailto:zsj-society@zoology.or.jp)